

Windows プログラミング

第 15 回

Windows Workflow Foundation - その1 -

こだか かおる
KODAKA, Kaoru

Windows Vistaと .NET Framework 3.0

Windows Vistaベータ2の一般ユーザーへの提供が始まりました。

<http://www.microsoft.com/windowsvista/ja-jp/preview.mspx>

そろそろ、本格的に次世代オペレーティングシステムへの準備を進める頃合でしょうか。これまでのCTP (Community Technology Preview) 版と比べて、安定性も速度も大きく向上しているようです。また、うれしいことにベータ2では日本語版の提供も開始されました(ちなみにドイツ語版も提供されています)。英語版に比べると少々完成度は低

いかなといった感じですが、やっぱり母国語版が提供されるのはうれしいものです。

正直なところ、これまでのCTP版を常用するのは少々つらかったのですが、ベータ2については、ドライバさえ用意できれば常用もさほど問題なさそうです。とはいえ、ベータ版であることは疑いようのない事実ですので、業務上の開発やら日々のメンテナンスやら、そういった用途にはお勧めできません。実運用環境として利用するには、大きなリスクが伴うことを忘れないください。何事も「自己責任」です。

Windows Vistaに関しては、そのユーザーインターフェイス「Aero」に大きな注目が集まっています。開発者にと

っての用語で言えば、「WPF (Windows Presentation Foundation)」ということになります。以前はAvalonと呼ばれていた機能ですが、これ以外にもいろいろな新機能が搭載されており、開発者にとってはうれしい反面、学ばなくてはいけないことが多く、「大変そうだなあ」というのが実感ではないでしょうか。

そういえば、いつの間にかWinFXも「.NET Framework 3.0」という名前に変わっていました(図1)。

<http://msdn.microsoft.com/winfx/>

.NET Framework 3.0は、Windows Vistaに搭載される新しいAPIセットです。当初はいわゆる「Win32 API」を置き換えるものとして期待されていましたが、どうもそこまでは行き着かないようで、名前を見る限り.NET Frameworkの新しいバージョンといった程度に抑えられてしまったようです。ちょっと残念ですね。

レベル >>> Level

1 2 3 4 5

言語 >>> Language

■ C#

ツール >>> Tool

- Visual Studio 2005 Professional
- Visual Studio 2005 Extensions for Windows Workflow Foundation Beta 2日本語版

*) 本記事では英語環境 (Windows XP英語版) で検証しています。そのため、掲載画面の一部が日本語版OSの表示と異なります。

図1: .NET Framework 3.0 formerly WinFX



Windows Workflow Foundation

今回は、この.NET Framework 3.0の中から、「Windows Workflow Foundation」について取り上げます。Avalon、Indigo（正式名称はWindows Communication Foundation）などと異なり、Windows Workflow Foundationにはコードネームがありません。いや、私が見知らないだけで内部的には何らかの呼び名がついているのでしょうか、あまり有名ではないようです。Windows VistaがまだLonghornと呼ばれていたころ、その注目の新機能としてはWinFS、Avalon、Indigoがあげられていました。

その時点では、Windows Workflow Foundationについて、噂すら聞こえていなかったように記憶しています。ちょっと遅れてきた新機能といえるでしょ

う。ですが、WinFSがフェードアウトしてしまった今、私にとっての注目は、このWindows Workflow Foundationだったりします。ということで、.NET Framework 3.0の中から、今回はまずWindows Workflow Foundationを取り上げ、その他の新機能については、連載の中で随時紹介していきたいと思います。

◎ どれを試す？

ともあれ、Windows Workflow Foundationを実際にダウンロードして試してみることにしましょう。現在入手可能なベータバージョンは、「1.2」「2.0」「2.2」の3つがあります。この辺はかなりややこしくなっているのが現状です。たとえば、MSDNのサブスクリバダウンロードを見てみると、「Tools, SDKs, and DDKs」に「Visual Studio Extensions for Windows Workflow Foundation」

があり、このカテゴリでは、英語版ベータ1.2と2.0、そして日本語版ベータ2.0が公開されています。これだけならよいのですが、「Windows Workflow Foundation」のほうには英語版ベータ1.2だけがあります。ファイル名をよく見てみると、どうも英語版と日本語版のベータ1.2は違うものようです。

さらに、Microsoftのダウンロードセンターには英語版ベータ1.2と2.0と2.2、そして日本語版2.0があります。日本語版ベータ2.0に注目してみると、MSDNサブスクリバ版とダウンロードセンター版でファイル名が異なります。どれをダウンロードしてインストールすればよいのやら、かなり混乱してしましますが、この2つのバージョンを確認してみるとどちらも「3.0.3603.4」で、同じものようです。このあたり、もう少しわかりやすくなっていると、手を出しやすくなると思うのですが……。

原稿執筆時点では、英語版ベータ2.2が最新となっています（図2）。しかし、多くのサンプルがベータ2.0ベースで作られていること、また、ベータ2.0には日本語版が用意されているということもありますので、ここでは日本語版ベータ2.0を利用することにします。ダウンロードセンターからダウンロードしておきましょう（図3）。

Visual Studio 2005 Extensionsという名前にはなっているものの、図3のとでも長い正式名称が示すとおり、この中にランタイムコンポーネントも含まれています。ですので、ランタイムコンポーネントを別途インストールする必要はありません（自動的にインストールされます）。もちろん、WinFX SDK、WinFX